

RESPONSE JET

SPORT LINE

この度は弊社製品<レスポンスジェット>をお買い上げ頂き、まことにありがとうございます。レスポンスジェットは、過給圧制御ソレノイドバルブを制御することにより車両のブースト圧を安全な範囲で上昇させ、加速の向上を可能にするシステムです。

本製品を安全にご使用頂く為に、装着ならびご使用前に必ず本説明書を読んで、内容を十分に理解のうえ取り付け作業をおこなって下さい。

※すでにブーストUPされている車両には取り付け出来ませんのでご了承ください。※その他弊社製品との組み合わせは可能です。

警告 死傷につながる恐れがある事故を未然に防ぐ為の事項を示してあります。

- 運転者は、走行中に本製品を操作しないで下さい。運転操作の妨げになり、事故の原因となります。
- 本製品はブースト圧制御ソレノイドバルブ制御を目的に製作されています。配線の接続及び、使用方法を間違えると車両の不調・破損・事故をきたす場合が考えられますので十分慎重に取り扱い下さい。なお何かの原因で車両の不調・事故が発生しても当社では一切の責任を負えませんのでご了承ください。

注意 負傷または、車両や商品の損傷を未然に防ぐ為の事項を示してあります。

- 取り付け作業はエンジンを停止させ、専用設備をもった安全な場所でおこなって下さい。必ず専門の業者に依頼して下さい。
- 製品を分解もしくは改造して使用した場合、当社では一切責任を負うことが出来ません。
- 配管を這わす時には可動部分は避けて取り付けして下さい。巻き込まれたり引っ張られたりして配管が切断しないように十分注意して下さい。

【レスポンスジェットの機能と特徴】

- 2～3種類のジェットが付属されています。ジェットの交換によりブースト圧の微調整が可能です。
 - * エンジンに大きな負担がかからぬようにジェットを選定してあります。
 - * 簡単にジェット交換による設定変更が可能です。
- 車両のホースをカットすることなく取り付けすることが可能です。
- 弊社製品との組み合わせ可能です。特にMINICON-PROはレスポンスジェットの効果を増大しますので取り付けを推奨致します。



注意

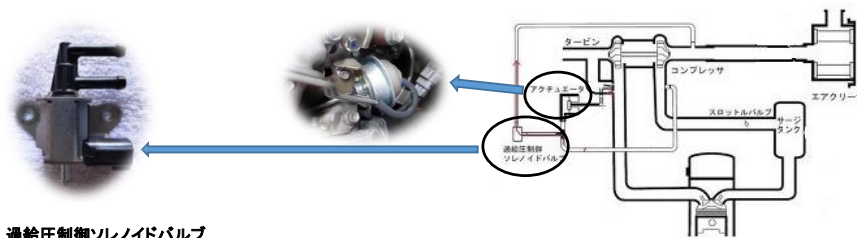
★車両に走行モード切替がある車両では、スポーツ・パワー系のモードにて使用して下さい。エコノーマル系のモードではブースト圧の変化がわかりにくい場合が多々あります。

【付属品】

- レスポンスジェットUNIT×1個 ● ステー×1個 ● ジェット×2～3個(ノーマル含む) ● ホース(1m)×1本
- 三つ又ジョイント×2個 ● タイラップバンド×8本 ● 両面テープ×1枚

【基本配管図】

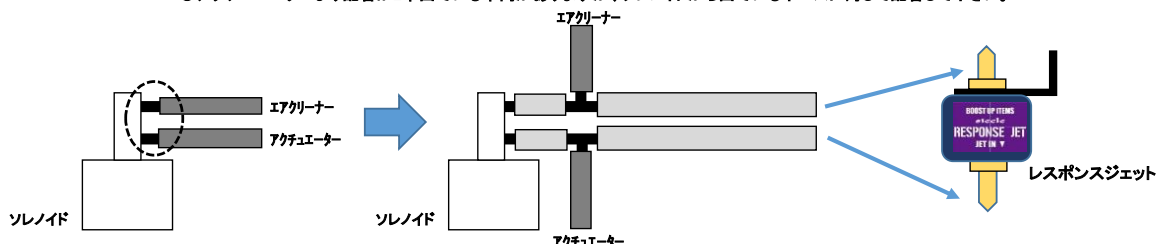
- 車両の過給圧制御ソレノイドバルブを確認して下さい。
- ホンダNシリーズのターボ車、HA36アルト車、LA400コペン車は【参考資料】をもとに配管をおこなって下さい。
- スズキMR41ハスラー車は【配管方法3】を参考に配管して下さい。



過給圧制御ソレノイドバルブ

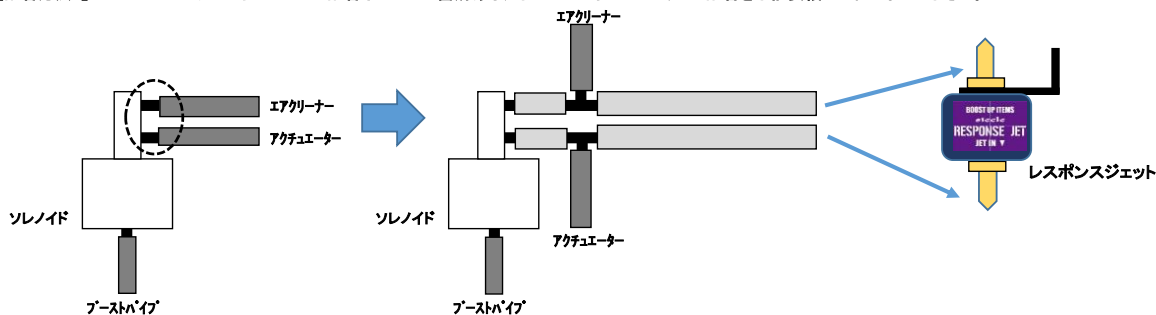
【配管方法1】

- ソレノイドバルブに配管ホースが2箇所あるタイプはレスポンスジェットの配管を下記要領にておこなって下さい。
- アクチュエーターより配管が2本出ている車両がありますが、ソレノイドから出ているホースに対して配管して下さい。



【配管方法2】

- ソレノイドバルブに配管ホースが3箇所あるタイプはレスポンスジェットの配管を下記要領にておこなって下さい。



- ① 過給圧制御ソレノイドバルブよりホースを抜いて下さい(2カ所)
- ② 付属のホース、三又を使用し上記配管をおこなって下さい。

- ホースはハサミにてカットして使用して下さい。
- 配管のホース口はタイラップバンドにより抜けぬように固定して下さい。



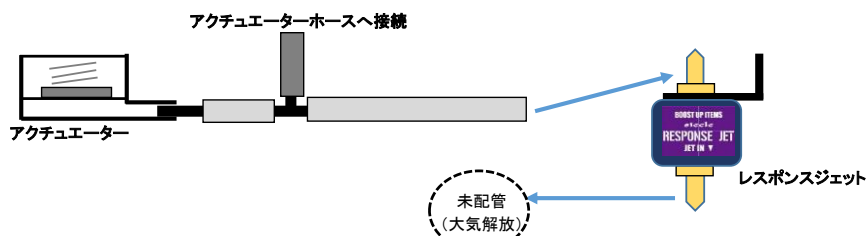
注意

③ レスポンスジェットUNITはステーを付けた状態で適度なトルクにて締め付け適当な場所へ固定して下さい。

【配管方法3】

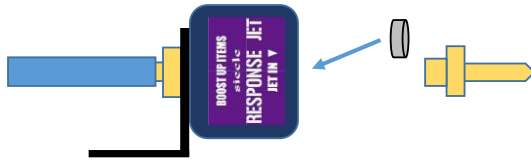
<MR41ハスラー>

- アクチュエーターに直接レスポンスジェットの片側を配管して下さい。レスポンスジェットの逆側は未配管(大気解放)
- * もしくはエアクリーナーへφ4mmの継手を加工装着し、ホースを接続しても可
- * 大気開放にて使用する場合は、点検・車検時にはノーマルジェット(#N)を使用して下さい。



【ジェット交換・セッティング方法】

- ①レスポンスジェットの片側のホースを抜き継手を外して下さい(継手のネジはφ12mmのスパンにて取り外すことができます)
- ②ジェットを交換し、継手を元に戻し、12mmのスパンにて適当なトルクにて締め付けて下さい。(注意！本体内でジェットが遊ばない程度に締める)
- ③ジェットを入れ替えることによりブースト圧の微調整が出来ます。



- ジェットの番号が大きくなるほどブースト圧が上がります。
- 適合表に使用可能なジェットが記載されています。ジェットによっては必ず弊社MINICON PROと組み合わせて使用して下さい。
*ブーストリミッターカットが入ってしまう為
- 走行モード切替のある車両では、スポーツ・パワーモードにてブースト圧等の確認をおこなって下さい。(エコ、ノーマルモードは不可)
- ④ブースト圧、フィーリング、燃費等を考慮し、最適なジェットを選択して下さい。

【MINICON PROの設定値】

- MINICON PROと組み合わせて使用する場合は下記の基準設定値をもとにセッティングをおこなって下さい。

FUEL-A	→	-3 ~ -4
S-POINT	→	フィーリングに応じ設定
FN MODE	→	MODE1 * ホンダNターボ車はブーストカットの関係で必ずMODE2にて使用して下さい。
- ブーストリミッターカットが入る時は、FUEL-Aボリュームをマイナス方向に1クリックづつ慎重に回して下さい。

【ノーマル復帰方法】

- 穴のないジェット(#N)を使用することによりノーマルブースト圧になります。

【トラブルチェック】

<アイドリング不調>

- 配管部分からエアを吸っている可能性があります。配管の継ぎ目等を再確認して下さい。
- 配管位置に間違えがないか？確認して下さい。

<ブーストリミッターカットが入る>

- 配管部分からエアを吸っている可能性があります。配管の継ぎ目等を再確認して下さい。
- 使用するジェットによっては、MINICON PROを装着しないとリミッターが入ってしまいます。
- 車両の仕様によっては、ジェットの番数を下げてみて確認をおこなって下さい。
- ホンダNシリーズ車でジェットの番数を下げてもカットが入る場合はφ6mm側のホースを大気解放して様子を見て下さい。

<ブーストがノーマルより上がらなくなった>

- #Nジェットに交換してみて、完全にノーマル時よりブースト圧が下がるようであればホースの長さが影響していることが考えられます。
この場合はホースを5cm程度つつカットしながらブースト圧の確認をおこなって下さい。
参考値！ HA36アルト、LA400コペンは約20cmにて正常状態になります。

【参考資料】

<ホンダNシリーズターボ車>



φ6mmホース接続

φ4mmホース接続

- ホンダNシリーズターボ車はアクチュエーターが作業しづらい位置にある為、途中の配管を利用して取り付けをおこなって下さい。
- レスポンスジェットの継手はφ6mmとφ4mmになっています。
*インターリリーフバルブ近辺のφ6mmのホースを抜き、レスポンスジェットのφ6mm側を配管して下さい。
*タービンアクチュエーターに接続されているホースをたどった所のφ4mmのホースを抜き、レスポンスジェットのφ4mm側を配管して下さい。

<HA36アルトRS、ワークス車>



<LA400コペン車>



【重要！】

- HA36アルトRS、ワークス車、LA400コペン車はレスポンスジェットのホース長により設定ブースト圧が影響を受けてしまいます。
- 必ずホースは片側約20cmにカットして使用して下さい。
*ホース長によりブースト圧の設定が確実に出来ない場合あり
- レスポンスジェットの固定方法は左画像を参考におこなって下さい。